

# インド株式の見通しについて

作成日：2024年11月20日

## トランプ大統領就任による影響

11月5日注目のアメリカ大統領選挙が行われ、接戦の予想に反し、トランプ氏が事前予想を超える選挙人を集め、圧勝。11月6日の株価の反応では、米国の上昇率が最も大きく、続いて日本、メキシコ、イスラエル、ブラジル、インド、カナダの順となりました。

また、スペイン、中国、韓国、ドイツ、イタリア、インドネシア、ベルギーなど、中国と関連深い各国が下落上位となりました。今回のトランプ氏の大統領当選に対するマーケットの初期反応は、日本、米国、オーストラリア、インドで構成されるQuad（クアッド）各国の株価はしっかりしたことから、脱中国インド太平洋圏重視と評価されたものと思われます。

トランプ氏の前政権下においては、激しい関税引き上げ政策を行いました。インドに対しては敵対的な姿勢ではなかったことが思いおこされます。前トランプ政権のように、米中対立が再度激化するリスクをマーケットは懸念していますが、インドにとってはプラスに働く可能性がある点が注目されます。

（クアッド加盟国）

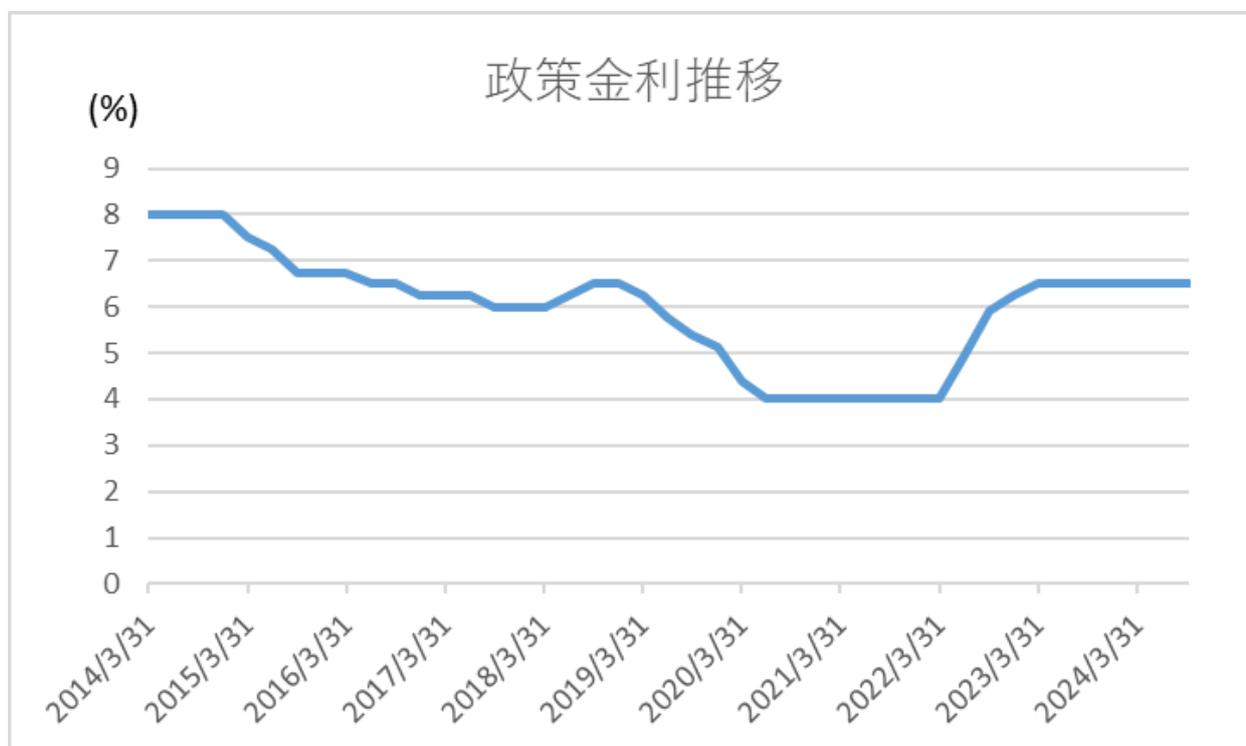


## 金融政策見通しについて

インド準備銀行（中央銀行）は10月9日（現地）に終了した金融政策決定会合で、市場予想通り政策金利のレポートを6.5%に据え置きました。（賛成5、反対1・反対の内容は0.25%の利下げに投票）一方で、政策スタンスを、「緩和の撤回」から「中立」に、全会一致で変更しました。

ダス中央銀行総裁は、「食品インフレが今後数カ月で緩和する可能性がある」「変動の激しい食品・エネルギー価格を除いたコア指数は底入れしたように見える」と発言。「中立的な政策スタンス」への変更ならびにインフレ緩和への発言は、12月の利下げ期待の高まりを意識される内容となりました。

今後、インフレ率低下に伴い、政策金利が低下に向かい始めるタイミングも近いと考えられ、金融政策が変更された際には、インド株式市場をサポートする大きな要素となると考えられます。



(出所) インド準備銀行ならびに主要各所データを基に au アセットマネジメントが作成

## インド株式のパフォーマンス

インドの株価指数 Nifty50 指数は過去 20 年間で約 17.3 倍となっており、世界の主な株式市場と比較して力強く上昇し、高い伸び率となっています。



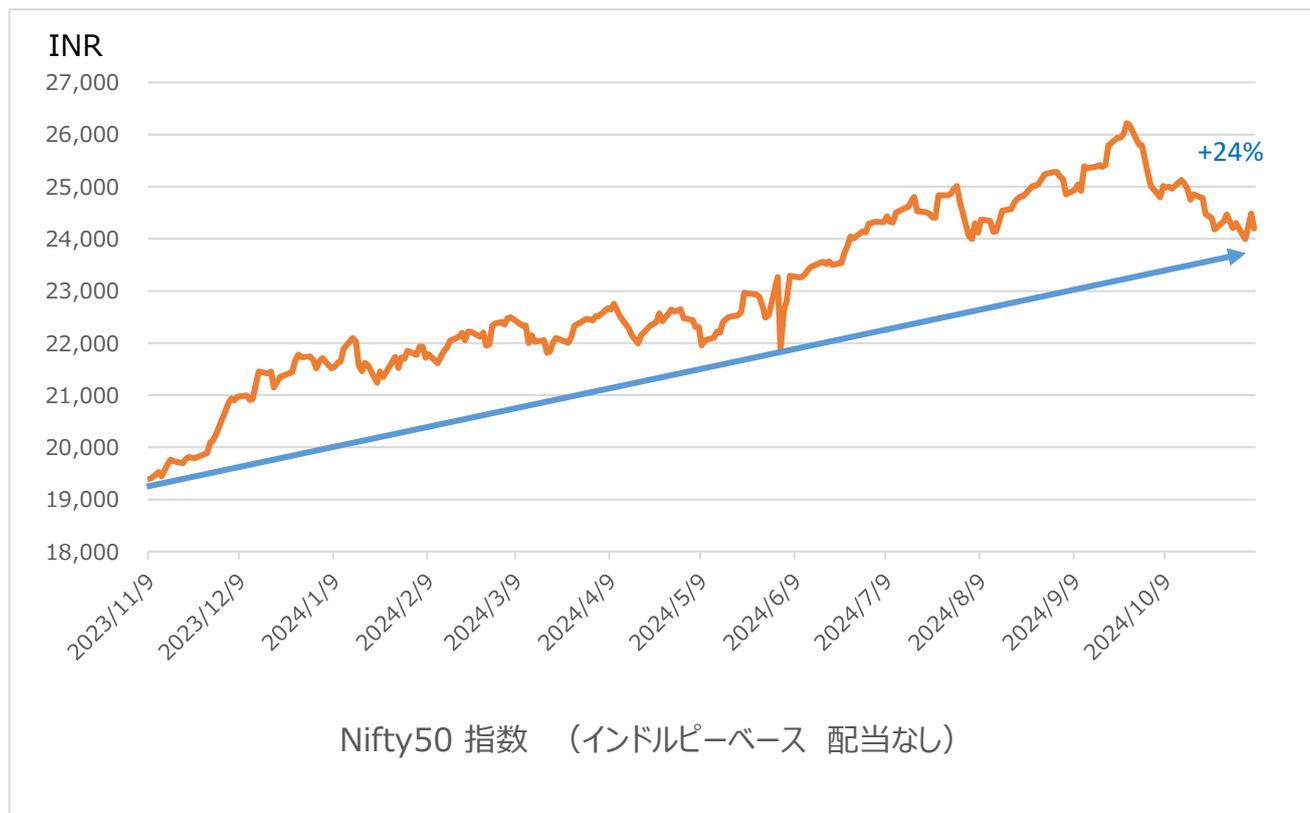
※2004年10月末を100として指数化 期間：2004年10月末～2024年10月末

(出所) 主要各所のデータに基づき au アセットマネジメント作成

日本：日経平均株価（配当込み）、米国：S&P500 指数（配当込み、米ドルベース）、インド：Nifty50 指数（配当込み、インドルピーベース）、中国：MSCI チャイナ（配当込み、香港ドルベース）

※各国の株価指数の値動きを示したものであり、ファンドの運用実績を示すものではありません。また、将来の運用成果を示唆・保証するものではありません。

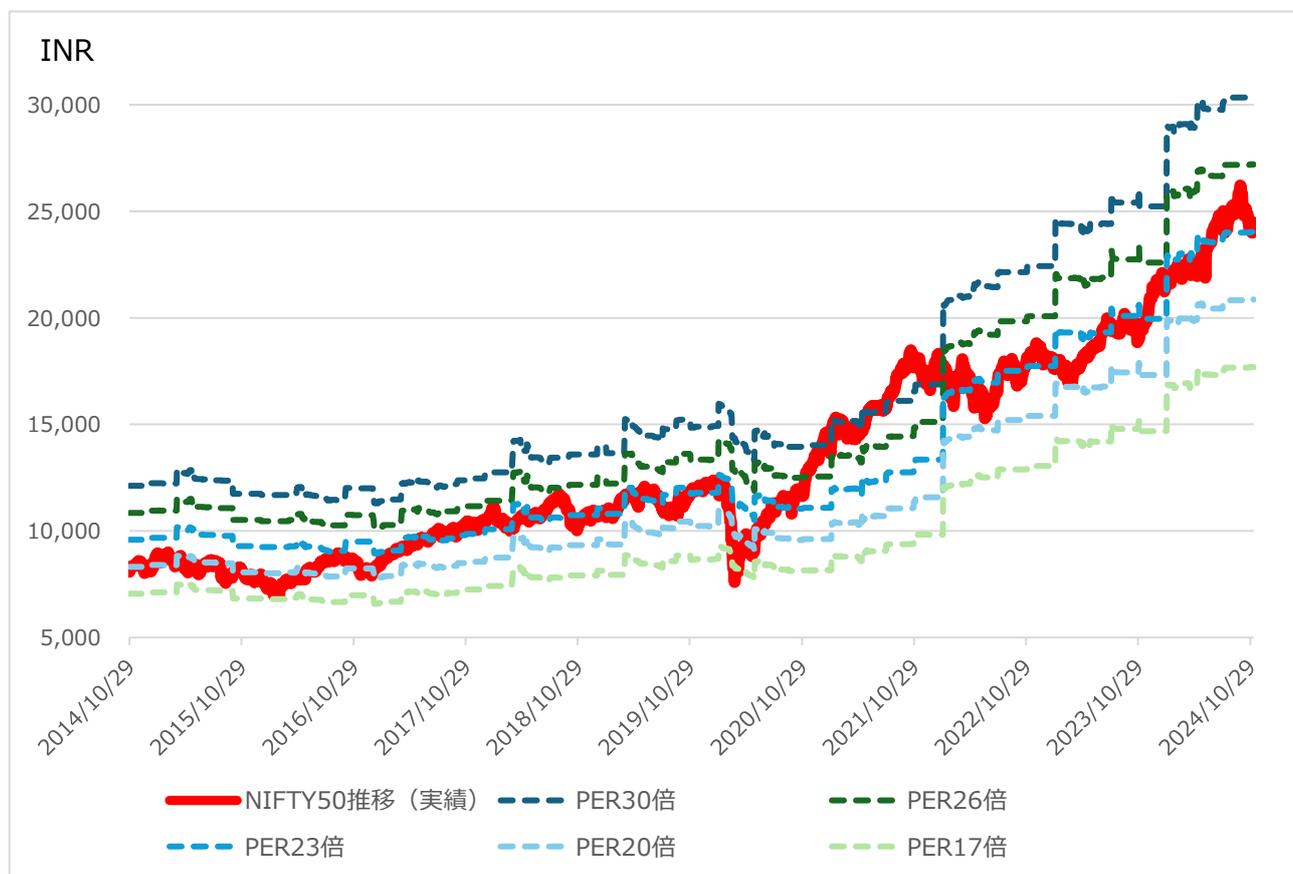
Nifty50 指数は、2024 年 9 月には最高値 26,216 INR まで上昇。現在は調整局面ですが、直近 1 年間のパフォーマンスは約 24%上昇と高いパフォーマンスとなっています。今後も高い経済成長見通しについては変わっておらず、インド市場の注目は高く、期待が持てる市場であることは変わりないと思われます。



(出所) 主要各所データを基に au アセットマネジメントが作成

過去 10 年間においても順調に EPS は伸びています。EPS の伸びとともに、株価も上昇し、現在は、過去 10 年平均の PER 水準である 23 倍程度で推移しています。

現在の水準は、割高な水準ではなく、今後も経済成長による EPS の拡大も期待され、株価においても上昇の可能性を持てると考えられます。



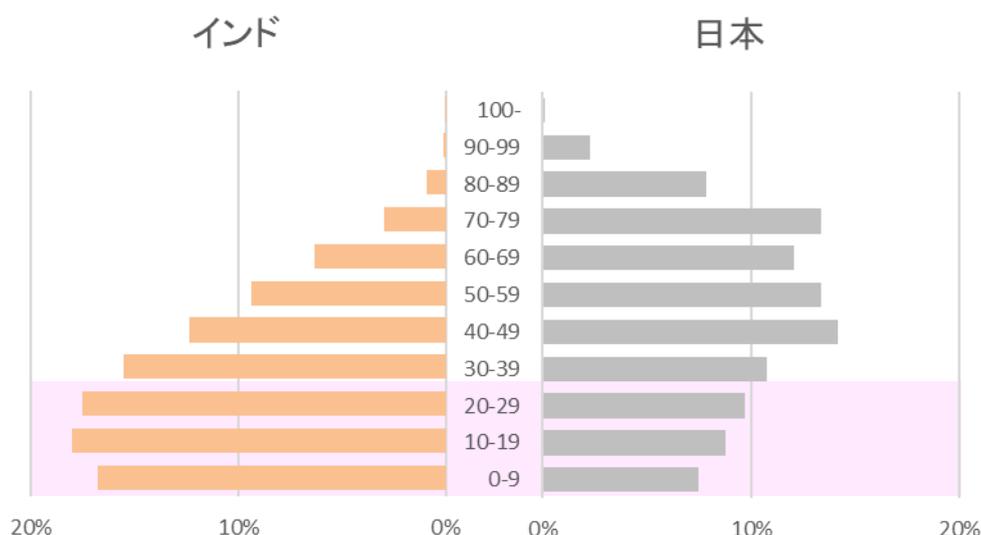
(出所) 主要各所データを基に au アセットマネジメントが作成

## インドの経済成長見通し

### ◆ 高成長を支える豊富な人的資源

2023年、インドは中国を抜き人口世界一となりました（14億2860万人）。同国の人口増加は今後も続く予測されており、消費の拡大等を背景に国内需要は一層の拡大が見込まれます。また、若年層の割合が非常に高く、全人口の52%が30歳未満である人口構成も魅力です。これは少子高齢化が進む日本（26%）の割合の約2倍です。こうした若年層は今後の労働力増加で高成長を支えるだけでなく、新しい技術やサービスの受け入れにも積極的であり、その高い消費マインドは経済成長に弾みをつけると期待されています。

<インドと日本の年齢別人口構成比>



（出所）国連「World Population Prospects 2022」のデータを基に au アセットマネジメント作成

さらに、現在世界最大である中国の中間所得層（年間可処分所得が5,000ドル以上3万5,000ドル以下）の規模を今後10年以内に追い抜くと予想されていることも注目されます。購買力を伴った中間所得層がさらに経済成長を後押しするものと思われます。

このように、「豊富な人的資源」、「巨大な国内市場」、「所得増加」を背景に今後も内需主導でさらなる成長が期待されます。

◆ インドの名目 GDP は 2027 年世界第 3 位へ

IMF 世界経済見通しによると、インドの GDP 成長率は 2024 年 6.8%、2025 年 6.5%と高成長が続き、2024 年現在世界 5 位の同国名目 GDP (US ドル) は 2027 年には日本、ドイツを抜いて世界 3 位に躍進すると予想されています。

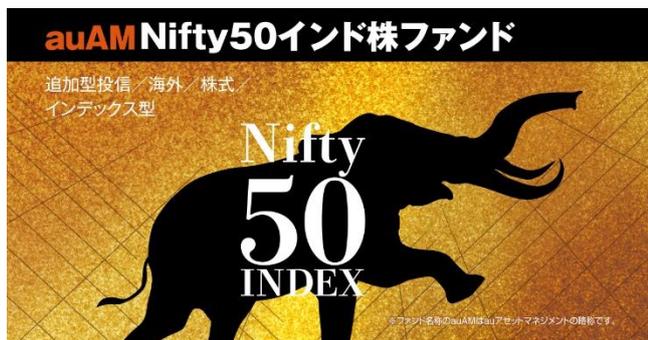
<世界名目 GDP (US ドル) 予測ランキング>

	2024	2025	2026	2027
1	米国	米国	米国	米国
2	中国	中国	中国	中国
3	ドイツ	ドイツ	ドイツ	インド
4	日本	インド	インド	ドイツ
5	インド	日本	日本	日本

(出所) IMF (国際通貨基金)「世界経済見通し 2024 年 4 月」のデータを基に au アセットマネジメント作成

## 【au アセットマネジメント株式会社が運用するインド株式投資信託】

au アセットマネジメント株式会社は、インド株式に関連した投資信託を、2 ファンド運用しております。



ファンドの概要/リスク/費用については、下記リンクをご確認ください。

### auAM Nifty50 インド株ファンド

[auAM Nifty50 インド株ファンドの特色 | au アセットマネジメント](#)

### auAM レバレッジ Nifty50 インド株ファンド

[auAM レバレッジ Nifty50 インド株ファンドの特色 | au アセットマネジメント](#)

## ◆ 当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は、au アセットマネジメント株式会社がファンドに関連する情報等をお知らせするために作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。ファンドの取得の申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする最新の投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認の上、ご自身でご判断ください。
- 投資信託は、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、投資元本が保証されているものではなく、これを割り込むことがあります。
- 信託財産に生じた利益および損失は、すべて投資者に帰属します。
- 投資信託は預貯金とは異なります。
- 投資信託は、預金や保険契約と異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。
- 証券会社以外でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。
- 当資料の記載内容は過去のデータによるシミュレーションであり、将来の運用成果等を示唆あるいは保証するものではありません。
- 当資料は、税金、手数料等を考慮しておりませんので、投資者の実質的な投資成果を示すものではありません。
- 当資料は信頼できると考えられる情報に基づき作成されていますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料中に示された情報等は、基準日時点のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。
- 分配金は、収益分配方針に基づいて委託会社が決定します。あらかじめ一定の額の分配をお約束するものではありません。分配金が支払われない場合もあります。
- 当資料の写真やイラストはイメージとして掲載するものです。
- ファンド名称の auAM は au アセットマネジメントの略称です。